

新しい鮭さけを迎える儀式

先日、第41回「石狩さけまつり」が盛大に行われましたが、毎年9月、市内八幡の河川敷で行われているアイヌ民族の鮭祭り―「新しい鮭を迎える儀式」をご存知でしょうか。

この祭りは、昭和62年から行われています。正確にはお祭りではなく、神々に祈りを捧げる儀式―カムイノミです。今年は、9月5日に行われました。この儀式は「アシリ・チェブ・ノミ」と



石狩市八幡でのアシリ・チェブ・ノミ (昭和62年)

呼ばれ、「札幌アイヌ文化協会」が特別許可を受けて石狩川の鮭を捕獲する際に実施しています。実はこの儀式、明治まで数百年間にわたり、石狩川を始めとする全道各地の鮭川で行われたアイヌ民族の重要な儀式でしたが、河川での漁の禁止により中断を余儀なくされたものです。「アシリ」―新しい、「チェブ」―魚(この場合、鮭のこと)、「ノミ」―祈る、という意味です。日本語に直すと「新しい鮭を迎える儀式」で、鮭がふるさとの川に帰ってきたことを歓迎し、神々に感謝する意味があります。今は、儀式的場所や鮭の雌雄はあまり問題にされていませんが、明治以前は必ず川の河口で行われ、雄鮭だけが用いられるなど厳格なものだったと伝えられています。なぜアイヌ民族は、このような儀式を行っていたのでしょうか。それは彼らにとつて鮭は、冬を越すための大切な食料だったからでした。彼らは鮭を「シイベ(本当の食物)」とか「カムイ・チェブ(神

神々のための祭壇
(アシリ・チェブ・ノミ案内状から転載)



儀式に使われるイナウ
(昭和62年)

の魚」と呼びます。鮭が冬の食料としていかに大切だったかは、江戸時代、不漁で石狩川流域のアイヌの人々が多数餓え死にした事件があったことから知ることができます。アシリ・チェブ・ノミは、まず初漁で取れた鮭を祭壇の前に置き、神々への感謝と祈りの言葉が捧げられます。次いで、参加者は石狩河口の神、阿蘇岩山あそいわの神、村の神、手稲山の神などのイナウ(ご幣)に酒(に)に酒(に)を塗って感謝の気持ちを表します。

(石橋孝夫)

■文化財課 ☎72-6123

✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711

✉i-museum@bz01.plala.or.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107

✉ihama@city.ishikari.hokkaido.jp